

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所・小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	医療法人社団田中医院 グループホームらべんだあ	評価実施年月日	平成20年1月25日
評価実施構成員氏名	木村 菊池 石田 小林 豊嶋 中村 日向 若佐 若月		
記録者氏名	木村 清美	記録年月日	平成20年1月25日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>開設時に作成した法人の理念とは別にGHに生活する利用者様のための理念をかかげ、その方が地域で生活していく援助を職員個々が心掛けていけるよう促し進めている。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>見えやすい場所に理念を掲示 心に止め取り組んで入るが実践は不十分</p>	<p>ケアを仕事として捉えるのではなくその方の生きる気持ちを支えるために寄り添い手伝うこと、心を支える一つの中にケア(介助)があるという事を職員全員に要浸透させていきたい。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>来訪者が目に入る箇所に理念を掲示している。入所契約時にも説明を行っている。</p>	<p>家族や地域の方々にGHとしての理念を理解して頂けるよう家族便りをはじめ、来訪時や運営推進会議等で説明していく努力をしています。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>毎日近所付き合いがあるわけではありませんが、春先に福寿草を頂いたり散歩のときなどに挨拶を積極的に行っています。</p>	<p>隣近所の方の来訪は数える程度で認知はされていても交流は不十分で今後の課題と思われれます。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>一部地域の行事(運動会)等に参加させて頂いたり、町の行事への参加を通じ利用者様と社会のつながりに努めています。</p>	
6	<p>事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>当事業所は開設3年未満のため、事業所内では行っていないが向かいユニットすらん・らいらくにおいて、地域・ケアマネの要望もあり昨年より認知症DSを開設している。らべんだあ職員も認知症DSの職員の一員としてより広く地域の要望に応えられるように心掛け地域との関わり、広がりを増やしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>自己を見つめ直す機会としてOJT資料を使い自己の向上に繋げていきたいと思い取り組んでいます。</p>	<p>外部評価の結果はミーティング等の中で話し合い改善項目の見直しを全職員で取り組むよう努力しています。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>GHでの現状の活動報告や取り組みについて説明報告し、話し合いを持つことにより意見や要望をサービスに活かせるように努めています。</p>	<p>家族の方や地域住民に対し気軽に参加して頂き意見や情報交換、現状の取り組みなどについて共有していけるよう働きかけをしていきたいと思っています。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議において町介護保険課の課長・係長が積極的に参加して頂いており、また月1回生活相談員も訪問して頂いております。意見交換をし第三者の目からの質問にも取り組んでいます。</p>	
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>実施できていない。</p>	<p>制度に対する理解をふかめるために、今後は勉強会の中で浸透していけるように勤めていきます。また、法人としても成年後見人制度に対しどう関わっていくか検討中である。法人内に社会福祉士資格の所持者もいるため、情報を頂き学習していきたいと考えております。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>研修資料を基に重要事項である事を、ミーティング等で話周知・理解を心掛けながらケアを行っています。</p>	<p>今後も勉強会やミーティング等の中で議題定義し虐待防止を徹底していけるように取り組んでいきます。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約の際には家族等が納得頂けるまで詳しく説明を行っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	月に一度町の相談委員の方が来て下さり、利用者の相談や率直な意見を聴いて下さっている。相談員の方から利用者様から出された声があればミーティング等で話し合い改善に向けて取り組んでいます。		普段から利用者の表情や言動から思いは察する努力をしている。
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月利用者家族に送付するお便りにて一ヶ月の利用者様の状況の他GH内の状況変化(異動など)、お小遣いの管理状況についても報告しています。		手紙は文章だけではなく毎回写真も送付することで言葉だけではない表情や生活風景を感じてもらえるようにしている。
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族から出された意見や要望は反映していけるように努力している。		家族の率直な意見が頂けるよう独自のアンケート用紙を作成し家族の意見や要望に応えていきたいと考えております。また、ご家族が気軽に意見等を言えるような雰囲気づくりや機会を増やしていければと考えております。
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に一度ミーティングを行い、職員からの意見を聴くようにしている。その時に話し合えなかった場合は次回のミーティングの議題として話し合っていけるように取り組んでいる。		職員の率直な思いや考えに対し十分把握しきれていないところもある為話を聴く時間ももったり話しやすい雰囲気づくりに取り組んでいきたいと思っております。
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者の要望また家族の負担も軽減し援助できるように対応を行っています。現場の状況や利用者の状態によっては人員を増やしたり時間の調整をし利用者に影響がいかない様に最大限努力している。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	基本的には馴染みの関係を保てるように職員を固定しているが、状況に応じ異動等がある場合は利用者・家族に不安や混乱を招かぬような対応に努めています。		職員の実践教育として、異動せざるを得ない状況もあるが、利用者・家族との信頼関係を築く上でも異動は最小限に押さえたいと考えております。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	事業所内での勉強会への参加や研修報告会に参加し、知識の習得や情報共有の機会をつくっている。	極力職員には研修への参加などにより質の向上を高められるような機会を増やしていきたいと思っています。
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	GH協議会、研修を通じ同業者との情報交換や交換研修などの交流が図れるよう取り組んでいる。	情報交換や活動を通じ、サービスの質の向上に繋がるよう積極的に取り組んでいきたいと思っています。
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	ストレス解消や交流の機会を目的として、定期的に食事会を行うなどの対策を行っている。	職員が気兼ねなく仕事ができる様な雰囲気づくりを行い、職員のストレスや悩みに気付けるよう努力していきたいと思っています。
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	職員の努力や成果を把握し評価している。資格取得や知識を高められるように研修等の参加を促している。	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	常々心掛けています。その方の声に耳を傾け思いを受け止められるようにしている。	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	常々心掛けています。その方の声に耳を傾け思いを受け止められるようにしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居前よりニーズを受けそれに応じた対応を行っている。必要に応じた対応を行っている。医療機関や作業療法士、管理栄養士からの指導・サポートを受けている。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	本人の混乱不安がないように支援するよう心掛けている。家族の了解があれば自宅とホームを行き来し徐々にホームに馴染んでいけるように話をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	本人の話を聴く中で昔の暮らしぶり、現在の思考、嗜好を知りケアに繋げていけるようにしている。また、以前得意としていた活動を生活リハと位置づけ本人からも学ぶ姿勢で接しています。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	来訪時に利用者の現状について報告し、さらに家族からも本人に関する情報を頂くことでより協力関係が得られるようになっている。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	電話希望また本人との会話の中で家族に会いたいなどの希望がある時は外出に誘い、家族との関係維持に努めています。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人にとって馴染みのある方の所へ出掛けたり、行きつけのお店などに定期的に足を運ぶことで従来の生活習慣が途切れないように配慮している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	同業職であった方、同じ地域で暮らしていた方達との交わりを大切に同じ話題で会話できる時間を尊重しています。		利用者が孤立することなく皆で楽しく過ごせる雰囲気づくりを行っていき利用者同士の関係性にも配慮していきたいと思います。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	実施できていない。		サービス利用後も気兼ねなく立ち寄って頂けるよう働きかけをしていきたいと思います。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の会話から本人の暮らしの意向を知る努力をしている。自ら意思を伝えることが困難な場合には、家族や知人の方からの情報提供を頂いている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴や馴染みの暮らしの方をとりまいていた環境を家族来訪の際に出来るだけ多くの情報を収集し、以前の暮らしと大きな変化なく過ごして頂ける様に努めています。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	一日の過ごし方や生活パターンを把握しており、心身状態の変化がある時はバイタルサインで確認。医療機関に報告し指示を仰いでいます。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	家族等が参加できない場合には概案の計画書を送付し同意または修正を行った上で介護計画を作成している。		本人家族を交えた話し合いは行われておらず、今後の改善点となります。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監視のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	定期的介護計画書の見直しを行い、入退院後の状態変化に加え新たな見直しもを行っている。		評価会議・モニタリングの際はプランに必要な関係者と話し合いをもち現状として本人が望むプランを作成できるよう取り組んでいきたいと思ます。
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録の記入、情報の共有に努めて介護計画の見直し、対応に活かしています。また短期目標のみを別に個別記録にはりプランと連動した記録を残せるように工夫しています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	状況に合わせて、本人・家族からの要望に応じていけるように心掛けています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	民謡や読み聞かせなどの慰問、ヘアカット、町の移動図書館などの支援を頂いている。		より良い生活環境として地域資源を有効的に活用し、地域の協力を得ながら支援していけるように取り組んでいきたいと思っています。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	現在作業療法士と調整しているが、GH利用者のリハビリテーションプログラムを検討している。過去にデイケアセンター職員の協力を受けている実績もある。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	相談や情報交換を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	ほぼ毎日掛かりつけ医の往診を受けており、可能な限り元気にその人らしく生活が出来るよう介護・医療のトータルサポートを提供している。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	掛かりつけ医のサポートのもと必要に応じて専門医療への受診を受けられるような体制が出来ている。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護職に限らずほぼ毎日医療機関から往診を受けており日常生活における健康管理の援助を受けている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院に伴い身体機能の低下や認知症状の進行を防ぐために家族との情報交換をこまめに行い早期退院出来るようにしている。また、病院関係者には、利用者の生活状況についての情報交換を行い情報の共有を図っている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	必要に応じ往診医が家族・職員とで話し合いを行い、その後の方針を共有している。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	出来る範囲の上での重度化、終末期のケア医療・家族との協力体制づくりに取り組んでいるが出来ない範囲においては、別サービスへの転居など話し合い、検討助言を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	
<p>49 住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>出来る範囲の上での援助を行っている。情報交換やかかりつけ医からの現状、今後どの様な援助が必要なのか聞き取り家族のフィードバックしている。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>日々尊厳を重視する事を職員に伝えている。また外来者に対しても個人の情報が漏洩されぬよう秘密保持の徹底をしている。</p>		<p>プライバシーの確保については都度確認し合い今後も徹底し取り組んでいきます。</p>
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>利用者個々の能力に合わせ、自己決定できるようにしている。例えば衣類の選択、飲み物食べ物物の選択など自己決定できるよう筆談やジェスチャーを交えている。</p>		<p>普段の生活の中で自己決定できる場面作りを行えるよう工夫していきたいと思います。</p>
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>個々のペースや生活リズムを尊重することは意識して対応しているが、全体的に職員側から促しを掛けていることが多い。</p>		<p>個別性を重視し、個々の望む生活が送れるよう再認識して支援していきけるよう取り組んでいきます。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>馴染みのあるお店や行きつけのお店など、本人がこれまで生活してきた環境を継続できるように支援しています。また、衣類の選択、整容においても、その方の能力に応じて自己決定できるよう対応しています。</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>メニューの作り方を利用者から教えて頂いたり、食事の準備を一緒に行うなど、本人の出来る力を活かせる様にしています。</p>		<p>食材買いや、調理・盛りつけ・後片付けなどりその方が楽しみややりがいを持てるような工夫をしていきたいと思います。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	極力本人の嗜好などが楽しめるように工夫をしています。		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄パターンを把握したり、本人の言動から排泄のサインを察しトイレでの排泄が行えるようにしている。		極力オムツを着用せずにWCでの排泄が行えるように工夫して対応していきます。
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	その方の入浴したい時間に合わせて入浴できるように配慮している。また、不安感や羞恥心を抱かないように、安心して入浴して頂けるように取り組んでいます。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	日中陽あたりの良い場所にて日向ぼっこをしたりと、一人一人が自由に休息取れるように工夫して対応しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人一人の得意な事を役割や楽しみと感じて頂けるように状況や状態に合わせて対応している。		
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	家族の了承を得た上で、少額の金銭を本人に預けている。普段自分で管理することが出来ない方であっても買い物や外食時はご自身で支払いをして頂く等の支援をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	極力本人が外出したい買い物に行きたいなどの要望がある場合、職員の配置を考えながら出掛けられるように支援しています。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	お墓参りや思い出の場所などへの外出は家族の協力を得ながら支援させて頂いています。		事業所としても本人の行きたい場所へ行ける機会をつくり実現できるように計画していきたいと思います。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	利用者からの希望の他、言動から心情を察し、電話のやり取りが出来るように配慮し取り組んでいます。		気兼ねなく自由に電話が使えたり、話せるように配慮しています。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族の方が遠慮や気遣いをしないよう自然な形で対応するようにしています。		遠方の家族が来られた際には宿泊の声掛けを行っています。気兼ねなくホームを訪れることが出来るような雰囲気づくりや対応を心掛けていきたいと思っています。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束について職員間で話し合いを定期的に行い共通理解に努めている。		職員が重要事項として共通認識して取り組めるようにミーティング等の中で話し合い確認していこうと思います。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	職員全員が鍵を掛けないことに対する重要性については理解しています。ただし理事長の安全を捉える上での考えや建物の立地条件等の環境的な問題もあり状況に応じ施錠・開錠を行っています。		鍵を掛けずとも利用者が自由に行き来出来る事を目指し、環境整備、地域社会への協力体制を築いていけるように取り組んでいきたいと思ます。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	昼夜問わず、利用者一人一人の様子が確認ができる様に職員の配置を考慮している。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	薬品や諸毒液等は一括し職員室に保管している。危険と思える(包丁・ブリーチ等)ものは箱や棚にしまっている注意が必要な度合いや利用者の状態に合わせ管理している。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	リスクや危険を想定し、対策を講じている。事故報告やヒヤリハット等はすぐに報告し、記録に残し予防策としての話し合いを行っている。		日々の生活の中で起こりえるヒヤリハットを察し、事故へと結びつかない、職員が一人一人が周知、徹底していけるように取り組んでいきます。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急時のマニュアルを作成しそれに基づいている。応急手当については資料配布による周知で実体験を想定した訓練は行っていない。		参考書や資料による周知のみで実際に実施していない為、応急手当や緊急時の連絡体制について、実際に活かせる様に技術取得の学習会を行っていきたいと考えています。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回消防の協力を経て避難訓練を実施している。町内・近隣の住民の方への支援対策としては理解されていないのが現状である。		地域住民の協力も得られるように運営推進会議などで支援対策に対しての呼び掛けを行っていきたいと思います。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	日頃からリスクについて考えており家族にも現状について説明しております。		利用者の安全と安心の暮らしのために現状を見て頂き、家族の方が納得して頂けるよう対応策を考え取り組んでいきたいと思います。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>普段から個々のバイタル値をチェックし体調管理の把握に努めている。体調変化を見逃さぬよう、日中に気になる変化があれば直ぐに医院に連絡し指示を仰ぐなどの対策をとっている。</p>	
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>内服薬の内容については直ぐに把握できるように投薬内容が書かれたものを用意している。日常の心身の状態においても、本人の状態を適切にDrへつなぎ適切な対応が出来るようにしている。</p>	<p>薬の変更等も度々ある為、利用者一人一人の服薬している薬の把握に努め、適切な支援をしていけるようにしていこうと思います。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>便秘予防として毎日プルーン・牛乳を摂って頂いている。体操や家事など適度に身体を動かすなど自然排便が出来るように促している。また、定期に来訪される管理栄養士によるアドバイスを受けている。</p>	
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>自身で行えない方に関しては毎食口腔ケアを促している。</p>	
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>栄養面については定期的に管理栄養士に献立のチェックとアドバイスを頂き栄養面での偏りがないようにしている。水分量や食事摂取量を毎日チェックし把握に努めている。</p>	
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>感染予防マニュアルを職員に周知徹底している。毎年インフルエンザの予防接種やノロウイルスその他の感染対策も行っている。</p>	<p>感染症予防として、職員・利用者はもちろん来訪者の方にも感染予防を理解して頂き手洗い、消毒マスクの着用などを行っていききたいと思います。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>毎晩ふきんやまな板は漂白し清潔に努めている。食材については状態によってメニューの変更を行ったり処分している。毎月担当者が冷蔵庫内の整理と衛生管理を行っている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関周りにはブランターを置き、近隣の方や家族の方も楽しんで頂けるように工夫している。また、玄関前にベンチを置くことで向かいユニット利用者様との憩いの場ともなっている。</p>		<p>家族、近隣住民の方が気軽に足を運んで頂けるよう今後も工夫していきたいと思います。</p>
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>季節に合わせた装飾や唄の歌詞を貼ったり季節感を味わって頂けるように工夫している。</p>		<p>物音や話し声など、音に対してのストレスを感じやすい為不快にならないように配慮をし、生活感や季節感をうまく活用し心地よく生活して頂けるように工夫していきたいと思います。</p>
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>職員が関わらないでも利用者それぞれが自分の寛ぐ場所を見つけ出して頂けている。また、孤立しないように職員は関わりを持つようにしている。</p>		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>個々の個室については、家族に相談し自宅で使用していたものを持参して頂く様お願いしている。</p>		<p>利用者によっては殺風景すぎる場所もあり、安心して過ごせるという点では改善が必要と思われる。家族の協力をもらい改善していきたいです。</p>
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>24時間ホーム内の換気を行っている。湿度や室温調節をこまめに行っている。個々の居室にも湿・温度計を設置し管理を行っている。</p>		<p>冬期間などは特に換気や湿・温度の管理を徹底して行っている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>利用者一人一人の状態に合わせ、テーブルの高さや日用品の場所なども設定している。</p>	
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>認識間違いによる混乱を招かぬよう案内表示の位置や飾り付け等にも配慮している。</p>	
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>陽当たりの良い所にベンチを置き玄関前に設置された花壇の育成状況がホーム内からでも見えるようにし利用者の張り合いになるよう活動の場所をつくっています。</p>	

. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない</p> <p>日々利用者と接する中で会話の中や表情などから思いを汲み取れるように対応している。</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p> <p>食事作りや趣味活動などを利用者と一緒にいたり、散歩に出掛けたりする機会を持っている。</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>これまでの生活を継続していけるように入浴や、食事の時間など本人の希望に合わせて対応している。</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>職員がさりげないお手伝いをしたり、一緒に行くことで自信につながったり、達成感を感じてもらっている。</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>その方の要望に応えられるように家族の協力も得ながら馴染みの場所に出掛けている。</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>日々利用者一人ひとりの体調や身体状態について把握している。ほぼ毎日医師や看護師の往診もあり、安心して暮らせる支援を行なっている。</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>通院のお手伝いや外出希望なども家族の協力や、職員の配置等に配慮し希望に添えるように支援している。</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない</p> <p>家族の思いを汲み取れるように努力をしている。相談等についても家族が納得されるまで丁寧に説明をしている。</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p> <p>知人や昔からのお付き合いのあるご近所の方が来て下さっている。</p>

. サービスの成果に関する項目		取り組みの成果	
項目		取り組みの成果	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない	運営推進会議を通し、情報共有することでグループホームの取り組みや理念についてより知って頂ける機会となっている。今後も家族をはじめ地域の方々とのつながりを広げていきたい。
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない	個々の得意とすることを発揮できる場面をつくる事で職員のやる気につながっている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	一人一人とゆっくり話をしたり過ごしたり出来るように常々心掛けて対応している。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない	利用者をはじめ家族が安心して頂けるようにケアに対する率直な思いを聞いている。今後はさらに家族と交流・情報共有の場を多くもちホーム、職員に対しての意見や要望を聴いていきたい。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)
 馴染みの場所に行ったり、親しい方とのつながりを持てるように外出の機会をつくっています。ホームで生活されている方が地域社会と切り離されることなく生活していけるよう多職種からの意見等を頂きながら多様面で支援していきたいと思えます。